

区分・種別	県指定史跡		
名称	だてひでむね 伊達秀宗の墓（夫人と近臣4人の墓を含む）		
所在地	宇和島市野川・宇和津町1丁目		
所有者	だてむねのり 伊達宗禮	管理団体	
指定年月日	昭和40年12月24日		
解説	<p>宇和島藩伊達家初代藩主秀宗の墓は、野川の等覚寺（もと白雲山竜泉寺）の境内にあって、墓域は276㎡あまりにおよび、墓碑は高さ3.64mの五輪塔である。向かって左に宮崎八郎兵衛と渡辺藤左衛門、右に神尾勘解由<small>かんおかげゆ</small>と高島太郎右衛門の殉死した近臣4名の五輪塔墓がある。秀宗の妻（井伊直政の娘）の墓は、宇和津町の大隆寺（もと正眼院）にあり、高さ2.73mの五輪塔である。</p> <p>秀宗は、天正19（1591）年に伊達政宗の長庶子として生まれた。文禄3（1594）年4歳のとき、豊臣秀吉の人質となり、翌々年秀吉の養子として元服、秀の一字をもらって秀宗と称した。関ヶ原の戦後、徳川氏の人質となる。慶長19（1614）年、大坂冬の陣に従軍し、その功により宇和郡10万石に封ぜられ、翌元和元（1615）年、板島（宇和島）に入った。秀宗は初期藩政の確立にあたったが、その治政下で有名な「山家事件」<small>やんべ</small>があり、また、五男宗純<small>むねずみ</small>に吉田3万石を分知するなど藩財政について苦慮している。</p> <p>明暦4（1658）年6月、68歳をもって江戸藩邸で没した。</p>		

